

令和6年度 静間小学校の教育

学校教育目標

自ら学び 心豊かな たくましい 静間っ子を育てる

学校教育重点目標

気づき，考え，みんなで創り出す
～子ども主体の学びの文化・くらしの文化の創造～

気づき

- 「なぜ。どうなってるの。」 ○「泣いている人がいる。」
- 「やってみよう。」 ○「あいさつが気になるな。」
- 「解決したい。」 ○「言葉づかいが悪いな。」
- 「こんな方法で、流れで」 ○「全校、仲良くなりたいな。」
- ◎「気づき」から価値ある学習課題やめあてを醸成していく。
- ◎そのために、系統の中で単元をとらえる教材研究を通して引き出した「気づき」を明確にし、学びのプロセスを描く。

考え

- 学びのプロセスを大事にしながら、既習事項等を活用しながら、自分の方法で思考する（見方・考え方を働かせる）。
- 根拠をもって考え、言語化する（書ききる・伝えきる）。
- 学級や学校をよりよくするための方法を考える。
- 学習・活動の成果、自分（たち）の成長を振り返る。
→学びや学校生活へのエネルギーとなる。

みんなで創り出す

- 考えたことを意見交流し、協働的・対話的に学びを深めたり、くらしを創ったりする。
↓獲得できるもの
- ☆多様な見方や考え方、思考・判断・表現、学びやくらしに生きて働く知識・技能、多様な学び方の獲得。
- ☆生きる支えとなる協働性・自治性の獲得。
- ☆自信や自尊心の獲得。
- ☆いじめや不祥事のない学校風土の獲得。

重点目標実現のために

- 1 育成すべき資質能力を明確し、その育成すべき資質能力に向かっていくために、どんな見方・考え方を働かせた、どんな学習活動を学びの経験値として積み上げていけばよいか、系統の中で単元をとらえていく教材研究を通して明らかにする。それを、子ども主体の学びの中で実現していくために、学びの意味や価値を自覚できるしかけ、単元との合わせ方の工夫、自分の学びのプロセスを描く場面を工夫しながら設定していく。
(気づき 考え みんなで創り出す授業=見方・考え方を働かせた主体的・協働的な学習活動)
- 2 進路保障を基底に据えた指導と評価の充実（一人一人の評価を大切に。それを指導に活かす。【教師の原則】）
- 3 学習課題について情報収集→分類整理→まとめ・表現 の学習過程を大切に。その中で、学校図書館活用・ICT活用の積極的な推進をめざす。→「考え みんなで創り出す学び」はいっそう活性化する。
- 4 特別支援のあり方を柔軟に弾力的に検討する（教育課程、関係機関・家庭との連携協働）→その子なりの「気づき 考え みんなで創り出す」学びを保障していくために
- 5 生徒指導と児童会のリンクにより、児童主体の自治的な活動を積み、児童主体のくらしの文化を創造する。
目標設定→実践→振り返り→成果・成長への実感→目標設定→実践 このサイクルの中でくらし創りの確立をめざす。
- 6 授業のため、学級のために時間を生み出す業務改善と勤務環境整備（12月に業務改善協議を実施）

学校運営協議会と連携した「学校と地域のつながり」

- 年3回の学校運営協議会の中で、地域の思いや願いを確認し、経営に活かす（4・11・2月）。
- 学校統合に向けた取組を3校区の思いや願いを大切に、かつ円滑に進める（教育課程・事前交流・安心安全面の配慮・備品整理 等）
- 学校の取組への参画（遠足・授業公開・児童総会・学校行事・学校行事前練習など）
- 3回目の学校運営協議会（2月実施）の中で、次年度の学校経営（改善策）への参画の仕方を協議する
- 校内の困難な事案（児童の問題行動や不登校、教職員の不祥事 等）にかかわる連携した対応をしていく。